

漁獲金額の7割強を占めるホタテ

八雲町の漁業は、太平洋の噴火湾に面した八雲・落部地区と日本海に面した熊石地域で行われています。噴火湾で行われているホタテ養殖は水揚げ高40億円前後で、八雲町の年間漁獲金額50〜60億円の7割強を占めています。一方、熊石地域の漁業はスケトウダラ、イカなどの回遊性資源が主な対象ですが、資源量の減少などから同地域の漁獲金額は4億円程度となっています。

噴火湾ではホタテのほかにサケやアカガレイの水揚げが高く、次いでナマコ、ボタンエビ（トヤマエビ）、ホッキ貝などが水揚げされています。ホタテ養殖は平成22年の水揚げ高が道内市町村で3位、噴火湾地区で1位となっており、町の基幹産業として地域の産業や雇用に大きな経済波及効果をもたらしています。八雲町のホタテ貝は、噴火湾や青森県陸奥地域と同様の垂下式養殖といわれる方式で、海中に吊されて育てられます。海底に接する直播き養殖と違い砂が貝の中に入らず、品質は市場で高く評価されています。

アワビ養殖と海洋深層水の活用

熊石地域で進められてきたアワビ養殖は「あわびの里」という地域づくりのシンボルとして知られています。熊石地域には道内で唯一、エゾアワビの人工種苗生産を行う北海道栽培漁業振興公社熊石事業所と、ここか

ら供給される種苗を中間育成する八雲町熊石水産種苗生産センターがあり、種苗生産から漁業者による海中養殖まで、一貫した生産体制が整っています。

アワビの種苗生産と中間育成には温泉熱と海洋深層水が活用されています。熊石海洋深層水は、水揚げされた魚介類の鮮度保持や蓄養水、熊石漁港荷捌所の洗浄水など水産分野の利用が主で、海洋深層水の特性である「清浄性・低温安定性・水質安定性」を活用して、養殖や活魚・鮮魚出荷に大変役立っています。

また、深層水塩の製造や各種加工品の原材料、農業分野への利用など幅広く活用されています。



●ホタテ貝養殖

1970年頃から始まった八雲町のホタテ貝養殖。2011年の東北大地震の津波により、海上のホタテ養殖施設は甚大な被害を受けたが、現在は復興が進んで生産力が回復している。海中の養殖用桁にロープで吊して育てられる八雲町のホタテ貝は、新貝（2年貝）、2.5年貝、生鮮貝（3年貝）と季節に応じて周年出荷されている。



●ボタンエビ

近年ボタンエビは資源保護のため漁期が制限されている。八雲町は平成22年・23年も噴火湾地区で2位の水揚げがある。水揚げされたボタンエビは熊石海洋深層水を活用して鮮度保持。海水とともに活エビとしても全国に出荷されている。



●落部漁協のセリ

太平洋側には八雲町漁業協同組合と落部漁業協同組合の2漁協が、日本海側にはひやま漁業協同組合の熊石支所がある。



●ホタテ水揚げ

天然の養魚池ともいわれる噴火湾で育つホタテは、何度も水揚げ日本一になったことがある。その品質は柔らかく甘みがあり、海外でも高い評価を得ている。



●サケ定置網漁

噴火湾の秋サケ来遊時期は道内でも遅く、定置網漁は11月上旬より最盛期を迎える。噴火湾に来遊するサケの中でも遊楽部川に帰帰するサケは、特に大型で鼻曲がりの固有種として知られる。この鼻曲がりサケを重ね漬後に寒風にさらす独特の製法「山漬け」の人气が高い。



●アカガレイ（さくらかれい）

噴火湾で水揚げされるアカガレイは、落部漁協から「さくらかれい」というブランド名で出荷され、人気が高い。



●公益社団法人北海道栽培漁業振興公社熊石事業所

エゾアワビの人工種苗生産を行う道内唯一の施設。1年かけて約30ミリに育った稚貝は、隣接する八雲町熊石水産種苗生産センターに供給され、さらに1年かけて約50ミリに中間育成される。漁業者はそれを海中でカゴ養殖する。



●スケトウダラ

11月から1月にかけて、熊石漁港はスケトウダラの水揚げ、梱包作業で賑わう。熊石地域のスケトウダラは韓国にも輸出。海洋深層水で洗浄することによる魚体の鮮度保持効果もあり、高値で取引されている。



●水産加工場

ホタテ、タラコ、イクラ、秋サケ等の加工品が生産されている。北海道 HACCP の認証を取得して衛生管理に取り組む工場もある。



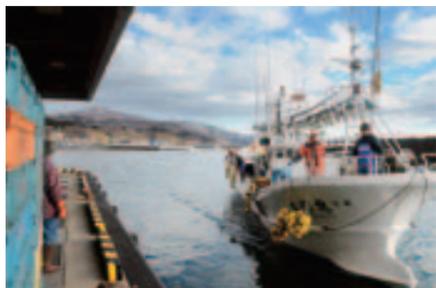
●熊石海洋深層水総合交流施設

海洋深層水はミネラル等に富み、細菌類が少なく、水温が通年1℃前後と低温で安定している。車輛積載タンク用の大口分水スタンドと少量容器用の小口分水スタンドを設置。海洋深層水の紹介パネル展示室、海洋深層水を利用した加工調理ができる加工研究室等もある。



●八雲町熊石水産種苗生産センター

エゾアワビの種苗を中間育成する八雲町の施設。管理運営は地元漁協が担う。



●熊石漁港

八雲町唯一の第3種漁港。衛生管理型施設を有し、高度な衛生管理と海洋深層水の使用で鮮度向上を図るなどスケトウダラの生鮮輸出拠点。漁業による地域振興を図る熊石地域マリンビジョンの中核。



●落部漁港

第2種漁港で、八雲漁港と並ぶほたて貝養殖漁業の拠点。分港は栄浜・東野漁港。ほたて貝のほか水揚げ魚種が豊富で、ボタンエビ、アカガレイなどのブランド化にも取り組んでいる。

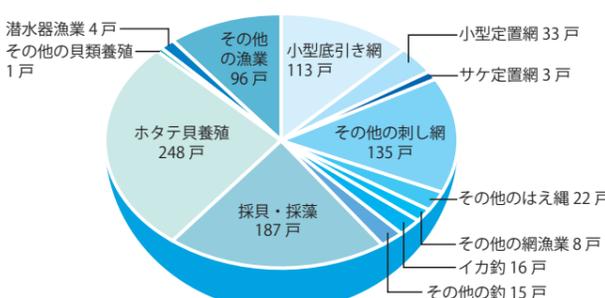


●八雲漁港

第2種漁港で、ほたて貝養殖漁業の拠点。分港に山崎漁港がある。衛生的な水揚げに不可欠な天蓋機能岸壁など漁港整備も進む。港内には地方卸売市場、隣接して水産物産地供給センターがある。



●漁業種別漁業経営体数（平成20年・戸）



●主要魚種水揚量及び水揚げ高（平成24年）

